

名古屋大学大学院生命農学研究科
附属フィールド科学教育研究センター 東郷フィールド

「コロナ禍における学生・留学生支援活動：農場生産物の提供」

2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、大学における教育・研究活動が大きな影響を受けました。2回目の緊急事態宣言が発出される中、大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールドでは、本学学生支援センターと連携し、アルバイト収入が断たれるなどして経済的に苦しい状況に置かれている学生・留学生に対して、東郷フィールドの大地で育てた生産物の無償提供を2021年1月20日(水)に実施しました。

この支援活動は、学生支援センターがコロナ禍において行うさまざまな支援策のひとつである学生への食料配付の機会に、緊急事態宣言下で休止した学内向けの生産物販売のために作付けしていた生産物を提供したものです。当日は、ハクサイとダイコンを準備し、約70名の学生に配付できました。学生支援センターからの事前の周知もあり、多くの学生が東郷フィールドからの新鮮な青果の到着を心待ちにしてくれました。大学からの食料支援は、日持ちのする乾物類やレトルト食品が中心であることもあり、生鮮食料品の配付が特に好評であったと、学生支援センターからのお話もありました。食料支援を受けた学生・留学生からは、大学が学生の支援をしてくれるという気持ちがなによりありがたいという声もあったとのことで、東郷フィールドとして意味のある支援活動に参加できたと考えています。今回の生産物提供は今後も週1回程度のペースで、緊急事態宣言期間中は継続する予定です。

東郷フィールド生産物の無償提供は、2020年4月から5月にかけての1回目の緊急事態宣言が解除され、学生がキャンパスに通うことが可能になった2020年5月後半から6月第1週にかけても、週2回、合計6回実施しました(トマト、ソラマメ、タマネギを提供)。東郷フィールドでは、今後も大学本部との連携を深めながら、必要な支援活動を展開できればと考えています。



東郷フィールド産のハクサイ、ダイコンの提供
(松尾総長も等身大パネルで参加)



学生への食料配付風景